

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会 WG3 透水・圧密
平成19年度 第3回ワーキング 議事録

日時	平成19年8月23日(水) 14:00～17:00		場所	地盤工学会 小会議室	
グループリーダー	大島 昭彦		サブグループリーダー	西垣 誠	×
WG 幹事長	渡部 要一		WG 幹事	山本 肇	×
メンバー	大向 直樹		メンバー	神谷 浩二	×
メンバー	佐藤 弘行	×	メンバー	藤原 照幸	
メンバー	森脇 武夫				

:出席 ×:欠席

議事録担当: 渡部

配布資料:

資料 - 1: 第1回WG議事録(参考配布)

資料 - 2: JIS A 1217 土の段階載荷による圧密試験方法改正案

資料 - 3: JIS A 1227 土のひずみ速度載荷による圧密試験方法改正案

資料 - 3 - 2: データシート案(圧密圧力・透水係数と間隙比 or 体積比の関係)

資料 - 4: 赤本とJISハンドブックの相違点

議 事:

1. JIS A 1217 の改正について

資料 - 2(資料説明: 渡部)

資料 - 2に基づいて、JIS A 1217 の改正案が示され、内容について審議がなされた。「5.2 供試体の成形」のところで、試料がある程度硬い場合(特に洪積粘土の場合)にはカッターリングを用いずに、圧密リングの内径に合わせて試料をトリミングし、これを圧密リングに直接押し込むことが多いという実態に合わせた改正案である。具体的には、備考の最後に3項目を設け

「試料が十分に硬い場合には、トリマー上で試料を供試体の直径よりも0.01～0.10mm大きく削り、これを圧密リングに直接押し込んでよい。」(審議結果を踏まえた修正文)

を挿入する。

改正の理由は、「試料が硬い場合には、カッターリングを用いると試料が割れやすく、試料を削ってカッターリングを押し込む操作を繰り返すよりも、リングの中に一気に押し込んだ方が乱れは少なくなるため」などとする。リングに押し込むときには、試料の上面を面取りすると取り扱いやすいことを解説で記述する。

2. JIS A 1218 の改正について

資料 - 3(資料説明: 森脇)

資料 - 3に基づいて、JIS A 1227 の改正案が示され、内容について審議がなされた。

変更箇所は下記の3箇所である。

(1) ひずみ速度の変動の許容範囲を明示

「圧縮装置は、圧密容器を水平に支持し、±10%の変動の範囲内で一定のひずみ速度を所定の軸圧縮力まで供試体に与えることができるもの。」

(2) 透水試験として捉え、粘土の応力～ひずみ関係を仮定することなく透水係数を算出し、これと

体積圧縮係数から圧密係数を算出する方法に変更。詳細は資料 - 3 参照。

圧縮曲線のデータシートに透水係数と間隙比を併記するようにするデータシート変更案は、示された案1と案2のうち、案1の方(p と k 共にグラフの下に軸を設けるもの)を採用することとなった。

(3) 報告事項

「透水係数と間隙比または体積比の関係」を報告事項に挙げた。

なお、圧縮速度の選定については、検討した結果、変更しないこととなった。

その他、図表 6.4.5 において、透水係数 k を加筆する必要があることが指摘された。

3. 赤本と JIS ハンドブックの相違点について

資料 - 4 (資料説明: 藤原)

赤本の JIS と、JIS ハンドブックに掲載されている JIS とが相違する箇所が散見されることが指摘された。これは、JGS が規格の審議団体として素案を作成した後、JISC での審議を経て JIS となったときに修正された事項が、赤本にはフィードバックされていないためであると想像される。文章表現のみならず、項目が削除されていたり、記号が異なったりするものもあるので、注意が必要である。

4. 今後の作業

資料なし

事務局より提供された OCR 付き pdf は、文字化けがひどく、これを使っての作業は困難であることがわかった。大島先生や森脇先生に、前回の赤本改訂時の原稿を探していただき、メンバーに送付することとなった。

室内試験規格・基準委員会に、JIS 改正のための上申を行わなければならない。次回の室内試験規格・基準委員会は9月10日に予定されているが、これには作業が間に合わないため、その次の委員会(開催日未定)には間に合うように、担当者(JIS A 1217 は渡部幹事長、JIS A 1227 は森脇先生)が準備をし、WG あるいはメール審議によって WG としてまとめることとなった。

5. その他

次回開催: 10月2日(火)15:30 ~ 地盤工学会関西支部にて WG3(圧密メンバーのみ)

以上